

【基盤研究(S)】

人文社会系(人文学)

研究課題名 ユーラシアの近代と新しい世界史叙述



東京大学・東洋文化研究所・教授 はねだ まさし
羽田 正

研究分野：歴史学

キーワード：世界史、文化交流、比較歴史学、海域世界、港町

【研究の背景・目的】

グローバル化が進み、人々に「地球市民」意識が求められる現代においては、世界の歴史を一体のものとして把握・理解することが必要である。その際、「ヨーロッパ」と「非ヨーロッパ」、「近代」と「前近代」として二分法的に捉えられる18-19世紀のユーラシアの歴史を全体としてどのように理解し、叙述するかが、決定的に重要となる。この共同研究では、国民国家や「ヨーロッパ（西洋）とアジア（東洋）」という既存の歴史叙述の単位にとらわれず、ユーラシア、さらに世界を一体と見る立場で新しい世界史を構築する方法を追究する。そして、その研究成果として、人類史における大きな転換の時代を描く新しい世界史のモデル（日本語と英語）を提示することを最終目標とする。

【研究の方法】

- 18-19世紀のユーラシアで、港町や内陸の隊商都市を基点として設定される多様な場（都市、地域社会、国家、海域世界など）における異文化交流（人・モノ・情報の受容、融合、拒絶）の実態を、史資料に基づいて具体的に明らかにする。
- 上記研究成果を、同一の場における時間軸上の比較、多様な場同士の多面的な比較を通じて総合的に把握し、18-19世紀のユーラシアの歴史を一体としてとらえる視点の獲得を目指す。
- 共同研究者は個別に全体のテーマに沿った研究を遂行するとともに、人・モノ・情報の3つのグループに適宜所属する。各グループは個別研究の成果を報告する研究会を年に1度主催し、国際集会を期間中に1度開催する。
- 港町、隊商都市の現地調査（旧市街の都市計画、建物の様式などの確認）を実施する。
- 研究協力者として、若手研究者の参加を募り、国内外の調査や研究会で修練を積ませる。
- 最終年度に「新しい世界史」を主テーマとする国際研究集会を開く。
- 上記各種研究の成果を、HP、雑誌論文、著書などの媒体を用いて、和文、欧文で発信する。

【期待される成果と意義】

<成果>

- 18-19世紀のユーラシアの多様な場における異文化交流の実態と変容が、人、モノ、情報の各分野において具体的に明らかとなること
 - 人：「内」と「外」の概念（国家の保護、市民、国籍など）、各種紛争処理法の体系化、ディアスポラ共同体と国民国家の関係など
 - モノ：モノ（織物、陶磁器、茶、薬種、諸金属、砂糖、穀物、アヘンなど）の動きとその背景、モノの受容による当該社会の変容
 - 情報：宗教、思想、学術、芸術、技術、衣食住などの各地での受容と融合、拒絶の実態
2. 個別研究成果を多角的に比較した上で総合し、ユーラシア全体における異文化交流の実態と時代による変化を巨視的に把握する視点が獲得されること
- 18-19世紀の世界を一つとしてとらえる世界史叙述が和文と英文で叙述されること

<意義>

- 専門分野を超えた共同研究による日本歴史学界への刺激
- 日本の良質な研究成果の国際発信
- 現代世界が必要とする世界史の創造

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- 羽田正『東インド会社とアジアの海』講談社、2007年
- 羽田正「イスラム世界」と新しい世界史」水島司（編）『グローバル・ヒストリーの挑戦』山川出版社、2008年
- Haneda Masashi (ed.), *Asian Port Cities 1600-1800*, NUS Press & Kyoto University Press, 2009

【研究期間と研究経費】

平成21年度－25年度
94,600千円
ホームページ等
(作成中)